

5 スポーツ施設再編・整備にあたっての課題

「4 スポーツ施設の評価」において、各施設における個別評価を行ない、得られた結果を基に施設整備に関する『方向性』と『整備手法』について1次評価として取りまとめを行ないましたが、さらに施設整備を行なう上での当市固有の課題は以下のとおりです。

(1) 大会が開催できる施設の不足

市民が普段スポーツを楽しむ場としての施設は、学校体育施設を含め各地域に分散立地されています。

しかし、市・県民大会など比較的規模の大きな大会の開催では、1会場あたりの施設の大きさやコート数が不足していること、駐車場や観客席が少なくやむを得ず分散して大会を開催している状況です。

さらに、本市を活動拠点とするスポーツチームの練習・活動等に対し、試合会場や練習会場となる施設の環境整備が求められています。

(2) 老朽化した施設の存在

設置後 30 年を経過し、施設劣化がみられる施設が多くあり、継続して安全で快適な競技環境を提供するために計画的な改修を行うことは勿論ですが、利用状況や利便性を注視し、場合によっては廃止による解体を行うなど、都市計画上の環境にも配慮することが必要です。

(3) 施設の質・機能の向上

今後、施設の改修等を実施していくにあたって、駐車場をはじめ、会議室、更衣（シャワー）室、冷暖房設備などの快適設備の充実を図る必要があります。

また、障がい者スポーツに対応できる施設内の段差改修や多目的トイレの整備など、ユニバーサルデザインに沿って、すべての人が一緒になってスポーツを楽しむことができる環境づくりが必要です。

さらに、2021 年をもって照明器具の水銀灯の製造や輸入等が中止（水俣条約）され、今後交換球の入手が困難になるばかりか、器具本体の修繕ができないこととなります。

このため、照明器具を現在主流になっている省電力の LED タイプに計画的に更新を行っていく必要があります。

(4) 複数の類似施設・零細施設への対応

2004（平成 16）年の市町村合併により、当時の施設をそのまま引き継ぎ配置していることから、類似施設が複数存在している状況です。

また、零細な施設が点在していることから、施設状態、利用状況及び市民ニーズなどを考慮し、集約による再配置や種目用途の変更などに努める必要があります。

(5) 他目的利用の現状

体育施設の中には災害時の避難所となっている施設があり、再編にあたっては考慮する必要もあります。

【拠点避難所】

大山田東体育館、青山児童屋内運動場、青山高尾体育館

【指定避難所】

伊賀上野武道館、阿山B&G海洋センター、大山田B&G海洋センター、

【ヘリポート】 上野運動公園野球場、上野運動公園競技場、ゆめが丘多目的広場、
いがまちスポーツセンターグラウンド、大山田東グラウンド、
阿山第一運動公園、大山田B&G海洋センター駐車場、
青山グラウンド、青山高尾グラウンド、青山矢持グラウンド

(6) 利用者ニーズに対するサービスや実施環境の充実

個々の施設が十分に利用されていない要因の一つとして、利用者が「いつでも」、「どこでも」施設の空き状況を確認し、すぐ予約出来る環境が整っていないことが挙げられます。

このため、インターネットを活用するなど利用者目線に立って利用環境の整備をする必要があります。

また、最近では、従前の競技スポーツばかりでなく居宅の近くでのジョギングに代表される気軽なスポーツニーズのほか、ボッチャやキンボール等のレクリエーション種目の普及が進んできています。

さらに新たにオリンピックの正式種目に採用されたスケートボードや^(注4)BMX など若年を中心としたスポーツにも関心が高まってきています。

このことから、その実施環境の整備と併せ、かつ個々の競技能力や知識の向上、生涯にわたりスポーツを楽しむためのスポーツ教室などソフト面での充実も必要です。

(7) 厳しい財政状況

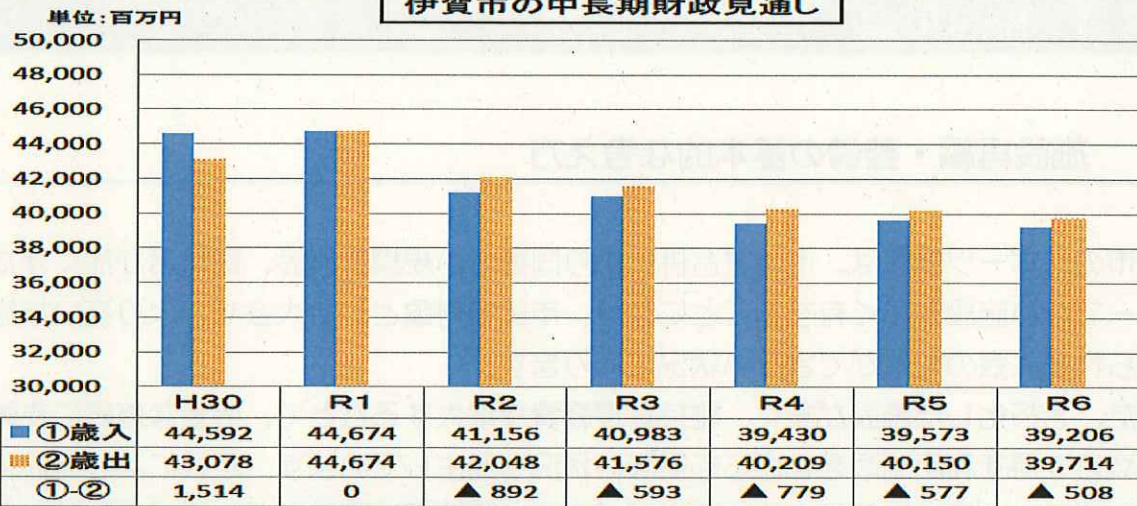
伊賀市においても少子高齢化や税収入の減少に加え、合併特例債や交付税の優遇期間の終了等により、厳しい財政状況となっています。

中期財政見通しによる2019（令和元）年度と2024（令和6）年度を比較すると予算総額が年々減少するとともに、歳入が歳出を下回っている状況です。

このため、現在あるスポーツ施設を現状のまま維持管理することは非常に困難なことから、類似施設の統廃合や多用途への変更や再編をする必要があります。

(注4) BMX とは Bicycle Motocross（バイシクルモトクロス）の略。自転車競技の一種でレースとフリースタイル（ジャンプや走破性などの技を競う）で構成。

伊賀市の中長期財政見通し



※平成30年度は決算額、令和元年度は当初予算を基本とし、算出しています。
 ※繰越事業については数値に含まれていません。

【伊賀市財政課】

(8) 現在までの公共施設最適化計画による効果

公共施設最適化計画第Ⅰ期（2015（平成27）年度～2019（平成31）年度）の間で廃止されたスポーツ施設の維持管理費用（平成31年度末まで累計）

施設名	廃止年度	維持管理経費（千円）
上野運動公園体育館	2016（平成28）年度	1,738
青山上津体育館	2017（平成29）年度	800
青山上津グラウンド	2017（平成29）年度	800
青山博要体育館	2017（平成29）年度	992
青山博要グラウンド	2017（平成29）年度	992
青山北部運動施設	2018（平成30）年度	1,898
上野運動公園プール	2019（平成31）年度	6,348
合計		13,568

2015（平成27）年度から2019（平成31）年度の公共施設最適化計画でのスポーツ施設の維持管理経費の削減額は、約1,300万円です。

一般的に、早期に削減等を行なうほど削減効果が大きくなります。

第3章 施設再編・整備の基本方針

1 施設再編・整備の基本的な考え方

本市のスポーツ施設は、市町村合併により同種で小規模な施設、観覧席が無くまたバリアフリーでない施設を多く有することになり、市民を対象とした大会や、より高い技術を間近で見られる大会の開催ができない状況にあります。

また、老朽化した施設が多く、維持管理経費が増大することで、必要な修繕に支障を来し、やむを得ず利用制限をせざるを得ない状況も発生しています。これにより施設稼働率がさらに低下し、その結果効率的な運営ができない悪循環に陥るなど、現状の施設は多くの課題を有しています。さらに、少子高齢化などの社会情勢や市民の多義にわたるスポーツニーズに対応するため、競技スポーツのみならず生涯スポーツやレクリエーションスポーツも楽しめる施設を整備する必要もあります。

このような中、市民が安心・安全にスポーツを気軽に楽しめる環境づくりや、快適にスポーツを観戦できる環境づくり、更にはスポーツによる交流人口の拡大に向けた施設整備を進めていきます。

また市民アンケートで「適正配置を検討する場合に重視すべき視点」を聞いたところ、

- ① 利用時の交通手段は自動車での利用が多く、十分な駐車場が確保されていること
- ② 多種目や同一種目機能を集中配置し、総合的な管理機能を生かした維持コストの削減への意見が多くなっています。

以上の事から、施設整備を進めるにあたっては、「老朽化状況」「利用状況」「機能別・地域別施設数」「他目的利用の現状」「伊賀市の今後のスポーツ振興の方向性」等のさまざまな視点と、アンケート調査の結果や利用者ニーズ、更には「伊賀市公共施設最適化計画」も踏まえつつ、目指すべき施設整備の方向性を定めて進めていきます。

なお、阿山第1運動公園（グラウンド、テニスコート、ゲートボール場）、阿山第2運動公園（グラウンド）、阿山B&G海洋センター（体育館、プール、艇庫）については、現在これらの周辺の公共施設と一体的に活用する「伊賀あやまスポレク文化キャンプ」として、スポーツによる交流人口の拡大を目指し、その方法としての公民連携事業に取り組んでいます。

これらの施設整備については、本計画に示す整備・計画の方向性ととも、前述の事業により整備していきます。

2 基本方針（スポーツ施設の環境評価）

前項の「1 施設再編・整備の基本的な考え方」により、次の基本方針を定めます。

（1）市民が利用しやすい施設・設備の整備

- ① 日常的なスポーツ利用に支障のないような機能維持に努めます。
- ② 誰もが快適かつ気軽にスポーツができる環境づくりや、障がい者スポーツの推進に向け、ユニバーサルデザインの導入など付帯機能の充実に努めます。
- ③ インターネットの活用などで、施設の空き状況の確認や施設予約等の利用手続きの簡素化を図ることで、利用者の利便性向上を図ります。

（2）老朽化施設の見直し・修繕

- ① 老朽化が著しい施設の内、改修しても施設の安全性が確保できない施設や、極めて利用の少ない施設、利用が地域に限定されている施設、市内に類似施設がある施設については、統廃合や転用などについて計画的に実施します。また状況によっては解体も視野に入れることとします。
- ② その他の施設は、利用者からの意見を聞きながら年度ごとに適正な修繕予算を確保しながら安心・安全かつ快適な施設環境を提供できるよう維持管理に努めます。

（3）大会を想定した施設の整備

市・県民大会など比較的規模の大きな大会が開催できるよう、駐車場や観覧席などの設備の設置を検討するほか、類似施設の統廃合により機能の集中化や充実を図ります。

さらに、このような大会に市民が「参加」・「見る」ことにより臨場感あふれる感動を直近で味わえるよう、施設の充実を図ります。


（4）新たな施設の整備

施設の規模や機能において、利用者ニーズに対応できず、今後の安定的な共用ができないと思われるものについては、新たな施設の整備に向け取り組みます。

3 個別施設の方向性・整備手法

国のガイドラインに基づく1次評価結果を踏まえつつ、当市の課題や方針さらにはニーズ調査結果についても加味し、今後の当市におけるスポーツ施設の方向性や整備手法について次のとおり定めるものとします。

個別施設の方向性及び整備手法

方向性	整備手法	【参考】 伊賀市公共施設最適化計画において概ね合致する区分	内 容
維持 	現状維持	継 続	屋外施設において、施設機能を維持しながら、長期的に使用を続ける。 【(例) 利用上の安全性や機能性を保つため必要に応じて改修等を行う。】
	長寿命化	継 続	屋内施設において、計画的に改修等の保全を行い、現在の施設をより長く使用する。 【(例) 安全性や機能性について予防措置を講じることにより施設の延命を図ること、または措置により機能性等が向上し、施設利用の快適性が保て結果として施設機能が長期間に保てるための改修を行う。】
	新設・建替	継 続	同等の機能を有する施設を整備する。または、新たなニーズに応じた施設を新規に整備する。
改善	耐震改修	継 続	地震に対する安全性向上を目的に改修する。 【(例) 耐震基準を満たしていない施設の、耐震改修を行う】
	他機能・機能集約化	複合化・縮小 ・継続	現在の種目機能の変更や機能集約(複合化)を行う。また、経年劣化や社会的環境に対応した改修を行う。 【(例) 現在の種目機能を他種目等に変更、または同じ種目機能を1箇所に集約する改修を行う。 (例) 施設構造体の劣化や、附属施設(トイレや更衣室等)の陳腐化、ならびに利用者ニーズ変化への対応等、社会的環境の変化に対応するための改修を行う。】
改 廃	譲 渡	縮小・廃止	施設機能を残し譲渡を行う。 【(例) 自治会やその他の団体への移譲、管理主体の変更を行う】
	廃 止	廃 止	施設を解体、又は売却等

1 上野運動公園競技場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

市中心部に立地し利便性に優れています。

400m×8レーンのトラックを備えているものの、土質で非公認競技場のため利用は多くありません。

一方、フィールドは、天然芝でサッカー、グランドゴルフにも利用されており、今後も日常的管理を行い必要な修繕を実施します。

また、プロ化を目指している地元クラブ伊賀FCくノー三重のホームグラウンドであることから、プロ基準（J3）における施設改修については、PFI方式など民間活力の導入の可能性について検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① シャワー室等整備工事 ② スコアボード塗装工事	③ 陸上トラック路盤改修工事

2 上野運動公園野球場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	—					

耐震性	耐震基準	—	対象外				
-----	------	---	-----	--	--	--	--

市内唯一の野球専用球場で、2021（令和3）年開催の「三重とこわか国体」の軟式野球会場とされ、稼働率は低いものの両翼が約100m取れ、加えて照明設備が配備されていること等、全国レベルの大会を開催することができる施設です。このため日常的管理を行い必要な修繕を実施します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① ダグアウト改修及び硬式対応工事	② 照明機器 LED 化改修工事 ③ 三塁側防球ネット設置工事

3 伊賀市民体育館

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

耐震性を満たし市中心部にも立地しています。

利用者数及びコスト面での評価が高く、競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（4面）、バスケットボールコート（2面）を取ることが可能で他の種目への汎用性も高くなっています。屋内スポーツ活動の拠点施設であることから諸室の整備やバリアフリー化を図り日常管理を実施します。

なお、旧学校体育館を転用した施設で観覧席が無いため、観覧方法や空調設備の整備について検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① トイレ等バリアフリー化改修工事 ② 照明機器 LED 化改修工事	③ 更衣ロッカー室、シャワー室整備工事

4 阿山B&G海洋センター体育館

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	A					
屋外施設	安全対策機能性	—					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

隣接する第1・2運動公園グラウンド、及びプール、テニスコートと一体となる総合スポーツセンターで、B&G財団から青少年健全育成の観点から整備後に移管された施設です。

耐震性を満たすとともに、稼働率、コスト面での評価が高くなっています。競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（3面）、を取ることが可能で他種目への汎用性も高く、屋内スポーツ活動の拠点施設であることから日常管理を実施し、長寿命化を図ります。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であることから、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 照明機器 LED化改修工事	② トレーニングルーム器具整備事業

5 大山田B&G海洋センター体育館

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	A					
屋外施設	安全対策機能性	—					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	維持管理費用	B					

耐震性	耐震基準	新	問題なし				
-----	------	---	------	--	--	--	--

耐震性を満たすとともに、稼働率、コスト面での評価が高くなっています。競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（3面）、を取ることが可能で他種目への汎用性も高くなっています。

また、B&G財団で青少年健全育成の観点から整備後に移管された施設であり、ソフト面での各種スポーツ教室の充実も図りながら日常管理を実施し長寿命化を図ります。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 照明機器 LED 化改修工事	② トレーニングルーム器具整備事業

6 大山田東体育館（旧大山田東小学校体育館）

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	C	劣	改善	長寿命化	改廃	譲渡
	機能性	C					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

構造安全性を満たしているものの、稼働率や利用者数での評価が低くなっています。
通常利用は地域住民が多く、柔軟な利用を図るうえでも地域へ移管を行ないます。

7 青山児童屋内運動場（旧矢持小学校体育館）

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	C	劣	改廃	廃止	改廃	譲渡 (廃止)
	機能性	C					
	法令適合性	B					

屋外施設	安全対策 機能性	—	劣				
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D					
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

耐震性を満たしているものの利用者数、コスト面での評価が低くなっています。

通常の利用は地域住民が多く、柔軟な利用を図るうえでも地域へ移管を行ないます。

なお、老朽化が激しいため地域住民との協議により利用に耐えられない際には、解体も視野に検討を行ないます。

8 青山高尾体育館

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	C	劣	改廃	廃止	改廃	譲渡 (廃止)
	機能性	C					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策 機能性	—					
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

耐震性を満たしているものの、稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は地域住民が多く、柔軟な利用を図るうえでも地域へ移管を行ないます。

9 ゆめが丘多目的広場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	機能改修
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策 機能性	B					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	良				

	維持管理費用	A				
耐震性	耐震基準	—	対象外			

成人用サッカーコートが確保できる施設で、付随施設であるトイレや駐車場もバリアフリー対応がなされています。稼働率が低いもののコスト面では構造物がないため評価は低くはありません。

一方、上野運動公園競技場が芝生養生の都合上、利用制限があるなかその代替施設として交互にサッカーを中心とした競技が行えるよう人工芝化も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① グラウンド暗渠排水・人工芝化工事	② 照明機器設置工事

10 しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	A	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	A					
	法令適合性	A					
屋外施設	安全対策	—	維持	長寿命化	維持	長寿命化	
	機能性	—					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

全天候型屋内施設で各評価項目も高く、必要な修繕を実施し日常管理を行ない、長寿命化を図ります。

11 島ヶ原運動広場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					

屋外施設	安全対策 機能性	B	良				
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C					
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用は休日における少年野球チームの練習にほぼ特化されることから、利用者数やコスト状況は若干劣りますが、グラウンドのみの施設であり日常管理を行いません。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① グラウンド不陸整正・外構排水工事	

1.2 いがまちスポーツセンターグラウンド

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策 機能性	B					
	その他	バリアフリー	A				
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

いがまち地域の総合型スポーツクラブの拠活動点施設にもなっており、稼働率が低いものの各項目の評価は平準化しています。

旧伊賀町で設置された総合運動公園の一部で、周囲に人家もなく名阪国道からのアクセスは非常に良く駐車台数も多く取ることが出来ます。

現在、高校ソフトボール部の練習需要が増加していることから、必要な備品等を整備し、これを活用した一般利用者の増加を図ります。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① ソフトボール防球ネット器具配備事業	② 照明機器LED化改修工事 ③ グラウンド暗渠排水改修工事

13 阿山第1運動公園グラウンド

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用者数、コスト面での評価が高くなっています。隣接する第2運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターです。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であることから、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 屋外トイレ設備改修工事	② 照明機器LED化改修工事

14 阿山第2運動公園グラウンド

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	D	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

隣接する第1運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターでコスト面での評価が高くなっています。

また、天然芝による成人用サッカーコートが整備されており、上野運動公園競技場が芝生養生の関係上利用制限がある中、ゆめが丘多目的広場と併せ、交互にサッカーを中心としたフィールド競技を行うことができる代替施設として継続して維持管理を行います。

なお、人工芝化・照明設備の設置も視野に継続します。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であることから、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 法面等獣害対策保護工事	② 照明機器設置工事 ③ 暗渠改修及び人工芝化工事

15 大山田東グラウンド（旧大山田東小学校グラウンド）

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内 施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外 施設	安全対策	B	劣	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D	劣	維持	現状維持	改廃	譲渡
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常利用は地域住民が多く、フレキシブルな利用を図るうえでも地域へ移管を行いません。

16 青山グラウンド

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内 施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改善 (維持)	他機能化 (機能)
	機能性	—					

	法令適合性	—					改修)
屋外施設	安全対策 機能性	B					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	良				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

青山地域のスポーツの拠点施設ですが、地域中心地からは遠く稼働率、利用状況は低い傾向にあります。

このため、グラウンド機能は当面継続しつつも、多用途機能の付加を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① 照明機器 LED 化改修工事
※ ←	多用途機能の検討

17 青山高尾グラウンド（旧高尾小学校グラウンド）

評価項目	ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性		
	個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法	
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策 機能性	B					
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は、地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域へ移管を行ないます。

18 青山矢持グラウンド（旧矢持小学校グラウンド）

評価項目	ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性		
	個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法	
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
	法令適合性	—					

屋外施設	安全対策 機能性	B	劣				
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D					
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は、地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域への移管を行いません。


19 上野運動公園テニスコート

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改善	機能集約
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策 機能性	B	良	維持	現状維持	改善	機能集約
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	B					
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

稼働率とコスト状況は高いものの、住宅地に立地しているため夜間照明やボールの越境などによる苦情が寄せられることもあります。

また、伊賀上野武道館と上野運動公園と隣接しスポーツ施設としては集約されていますが、駐車台数が少なく、かつコート数も現状6面であることから規模の大きな大会が開催できないことがあります。さらに専用管理事務所を設けていることから、一括管理できる他施設（いがまちスポーツセンターを想定）へ機能移転と集約を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 機能移転後の解体工事 	機能移転後の用地活用方法の検討

20 上野緑ヶ丘テニスコート

評価項目	ガイドラインによる1次評価結果	個別施設の方向性
------	-----------------	----------

		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改廃	譲渡
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

評価各項目は低くはないものの、伊賀市立緑ヶ丘中学校テニスコートと隣接しています。施設への進入路は狭く、また専用駐車場も完備されておらず、利用形態は学校授業やクラブ活動での利用が多いことから教育委員会へ移管を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 再整備後の解体工事 【10,000千円】	

21 ゆめが丘テニスコート

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性						
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	B	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

各項目において極端に劣るものではなく、稼働率も高くなっています。周囲に人家もなく都市公園施設の一角に設置され、加えて企業が立地するエリアに近いなど立地環境が良い為、継続して日常管理を行ないます。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① コート人工芝改修工事	② 照明機器LED化改修工事

22 いがまちスポーツセンターテニスコート

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果			個別施設の方向性		
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	劣	改善	機能改修	改善	機能集約化
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	C	良	改善	機能改修	改善	機能集約化
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	良	改善	機能改修	改善	機能集約化
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

旧伊賀町で設置された総合運動公園の一部であり、周囲に人家もなく名阪国道からのアクセスは良く駐車場も広がっています。

各評価項目で極端に劣るものはなく、バリアフリー度も高くなっています。

現在5面のコートがありますが、増設によりトータル10面程度のコート設置が可能で、整備後は規模の大きな大会を開催することが可能であることから、他コートからの機能移転を受け入れ、当面維持管理を継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 既存コート人工芝改修工事	④ 人工芝改修工事
② 集約コート増設工事	
③ 照明機器 LED 化改修工事	

23 阿山第1運動公園テニスコート

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果			個別施設の方向性		
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	B	良				

	維持管理費用	B				
耐震性	耐震基準	—	対象外			

隣接する第1・第2運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターであり、コスト面での評価が高くなっており維持管理を継続します。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であることから、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 人工芝改修工事 ② 照明機器LED化改修工事	③ 人工芝改修工事

24 青山テニスコート

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	劣	改廃	廃止	改廃	(譲渡) 廃止
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	C					
	機能性	C					
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

全ての項目で低評価となっていることから廃止し、敷地については売却若しくは隣接の青山中学校の駐車場として移管します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 廃止に伴う解体整地工事	

25 しらさぎ運動公園ゲートボール場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性	B					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	C					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用がほぼ無い状況のため、競技団体の意見を聴きながら他用途への変更を行ないます。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
他用途化に向けた検討	用途変更のための改修工事

26 いがまちスポーツセンターゲートボール場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	—	良	維持	現状維持	改善	他機能・機能集約化
	機能性	—					
	法令適合性	—					
屋外施設	安全対策	B					
	機能性	B					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	C	劣				
	維持管理費用	D					
耐震性	耐震基準	—	対象外				

利用がほぼ無い状況のため、用途変更（テニスコート、休憩所等）を行ないます。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
用途変更のための改修工事	
他用途化に向けた検討	

27 阿山第1運動公園ゲートボール場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	A	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	A					
屋外施設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	A	良				
	維持管理費用	A					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

ゲートボールやグラウンドゴルフなどに加え、全天候型の屋内施設であり構造安全性、稼働率での評価が格段に高く、各種イベントでの利用もあることから継続とします。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であることから、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① 照明器具 LED 化改修工事

28 阿山B&G海洋センタープール

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策	—					
	機能性	—					
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

夏期限定運用施設ですが、大山田B&G海洋センタープールと併せ継続して日常管理を行い、さらに水泳教室や屋内カヌー教室（SAP）等、ソフト事業の開催を検討します。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高

速道路からのアクセスも容易であることから、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① プール施設大規模改修工事 躯体防錆塗装工事、照明機器 LED 化改修工事、濾過・塩素注入機器更新工事

29 大山田B&G海洋センタープール

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	B	良	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策	—	劣	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	機能性						
その他	バリアフリー	A					
経済性	利用状況	D	劣	維持	長寿命化	維持	長寿命化
	維持管理費用	B					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

阿山B&G海洋センタープールと併せ継続して日常管理を行い、さらに水泳教室や屋内力ヌー教室（SAP）等、ソフト事業の開催を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① プール施設大規模改修工事 躯体防錆塗装工事、上屋テント改修工事、照明機器 LED 化改修工事、濾過・塩素注入機器更新工事	

30 伊賀上野武道場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	C	良	維持	現状維持	維持	長寿命化 (新設・建て替え)
	機能性	B					
	法令適合性	B					

屋外施設	安全対策 機能性	—				
その他	バリアフリー	B				
経済性	利用状況	B	良			
	維持管理費用	—				
耐震性	耐震基準	新	問題なし			

構造安全性、稼働率、コスト状況については評価が高い一方、耐用年数を超過するなど施設の老朽化が非常に進行しています。

一方、当該施設は市内唯一の武道場でもあり、日常の維持管理を継続しつつ弓道場と併せ総合的な武道場として改築の検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">改築の検討</div>	

31 伊賀市民弓道場

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	C	劣	改善	耐震改修	改善 (維持)	耐震改修 (新設・建て替え)
	機能性	C					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策 機能性	—					
その他	バリアフリー	C					
経済性	利用状況	A	良				
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	旧	問題あり				

構造安全性・老朽化状況についての評価が低く、耐用年数を超過するなど施設の老朽化が非常に進行しています。利用者数は少ないものの唯一の弓道場で競技団体を中心とした稼働率も高いため、日常の維持管理を継続しつつ現在の武道場と併せ総合的な新武道場として改築の検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
-----------------	-----------------

① あづち改修工事	武道館改築状況に合わせた検討
-----------	----------------

32 阿山B&G海洋センター艇庫

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	C	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策	—	劣	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
その他	バリアフリー	B					
経済性	利用状況	D	劣	維持	現状維持	維持	現状維持
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

カヌー等を格納する施設であるため、当面倉庫機能として継続し、ソフト面での各種教室の定期開催について検討します。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であることから、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 艇庫維持管理修繕工事	

33 大山田B&G海洋センター艇庫

評価項目		ガイドラインによる1次評価結果				個別施設の方向性	
		個別評価	評価	方向性	整備手法	方向性	整備手法
屋内施設	安全性	C	良	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	B					
	法令適合性	B					
屋外施設	安全対策	—	劣	維持	現状維持	維持	現状維持
	機能性	—					
その他	バリアフリー	B					

経済性	利用状況	D	劣				
	維持管理費用	—					
耐震性	耐震基準	新	問題なし				

カヌー等を格納する施設であるため、当面倉庫機能として継続し、ソフト面で各種教室の定期開催について検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 艇庫維持管理修繕工事 【20,000千円】	

34 上野運動公園多目的グラウンド（令和3年4月稼働予定）

上野運動公園プール跡地に、2021（令和3）年開催の国民体育大会時のウォーミングアップ会場として利用できる多目的グラウンドを整備します。国民体育大会終了後は、ウォーミングアップスペースを残しつつ、多様なスポーツニーズに対応するための施設として整備します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
ニーズに合わせた施設改修検討	整備工事

4 計画の推進にあたって

（1）計画の進行管理及び推進

本計画の進行において、施設別方針の変更や、具体化する計画の内容に修正・変更・追加等があった場合は見直しを図り、スポーツ推進審議会等での管理による進捗を図ります。また、伊賀市の描く行政分野の施策・事業全体の状況も勘案しながら柔軟かつ着実な計画の推進をはかります。

（2）「生涯スポーツ都市宣言」に対応した施策の展開

伊賀市では、2017（平成29）年2月に「生涯スポーツ都市」を宣言し、今後さらに進む高齢化社会において、市民の健康増進や生きがいづくりの観点からも、「ウォーキング」や「グラウンド・ゴルフ」、「ボッチャ」をはじめ、「軽スポーツ」を推進することとしています。

様々な競技スポーツだけでなく、軽スポーツ・生涯スポーツも含めたあらゆるスポーツを推進するために、学校開放事業を展開するための市内の小中学校施設も考慮することとします。

また、2019（令和元）年8月にスポーツ庁が示した「スポーツ実施率向上のための

中長期的な施策」を参考にし、施設の利用率が高まるよう、ライフステージに応じた庁内横断した部署の連携の中、スポーツ活動の推進や利用団体等からアイデアを募るなど、施設の利用促進策についても検討します。

(3) 公民連携の推進

行政と民間事業者が協働で公共サービスの提供等を行う「公民連携」は、これまで自治体が単独で取り組んできた分野に、民間の知恵やアイデア、資金や技術、ノウハウを取り入れ、住民サービスの向上や業務効率のアップ、地域経済の活性化などをはかるものです。具体的にはPFI事業をはじめ、指定管理者制度、公設民営、包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング、ネーミングライツ、定期借地活用などの様々な手法があり、今後、スポーツ施設の安定した運営や財源確保等において公民連携の手法を推進します。

(4) 財源の確保

スポーツ施設の維持管理や整備には、多額の予算投入が必要となることから、整備計画に基づいた計画的な施工を行うとともに、国庫補助金や^(注5)スポーツ振興くじ助成金の活用を図るなど財源の確保を図ることとします。

また、施設移転や廃止などにより生じた土地についても、他の行政目的に支障が生じない程度において売却など積極的な処分を行います。

(5) 長期的視点に立った施設の整備

施設の設置形態は、一般的に単一競技に特化したものと多くの種目が可能な複合施設に大別されますが、快適で安全な実施環境を整えることが大切です。この為には限られた財源を集中的に投入する必要があるため、複合化や集約などについて計画年度途上においても社会情勢にも留意しながら継続して検討を行うこととします。

伊賀市生涯スポーツ都市宣言

宣言文

スポーツは、心と体の健康を育むとともに、人と人との交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るうえで重要な役割を果たしています。私たち市民一人ひとりが、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進するため、ここに「生涯スポーツ都市」を宣言します。

- スポーツに親しみ 健康な心身をつくります
- スポーツを楽しみ 思いやりとふれあいの輪を広げます
- スポーツを通して 明るく活力ある伊賀市をつくります

伊賀市生涯スポーツ都市宣言 説明文

少子高齢化社会を迎え、人々の価値観やライフスタイルが多様化する今日において、スポーツは、人生をより健康で充実したものにするために欠くことができないものとして、その重要性がますます高まっています。

伊賀市は、古くから伊賀流忍者の里であり、現在健康づくりの忍にん体操から、スポーツ・レクリエーション、競技スポーツ、武道に至るまで、さまざまなスポーツが盛んに行われています。

2018（平成30）年には「2018 彩る感動東海総体」（平成30年度全国高等学校総合体育大会）、2021（平成33）年には「三重とこわか国体」（第76回国民体育大会）が伊賀市で開催されることを契機に、生涯スポーツ都市宣言を行ない、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ都市の実現に向けて、スポーツの持つ可能性を最大限に活かし、生涯にわたってスポーツを「する」、「見る」、「支える」ことで、人と人とのつながりを育み、健康で明るい伊賀市を目指します。

(5) スポーツ・レクリエーション施設

スポーツ・レクリエーション施設は、屋内スポーツ施設15,035㎡、屋外スポーツ施設1,324㎡、観光・レクリエーション施設3,767㎡、商業施設8,854㎡、合計28,980㎡を保有しており、公共施設最適化計画に基づく取組みによって2015（平成27）年度までに延床面積で0.2%の施設を廃止しました。2015（平成27）年度時点の方針は、継続36%、複合化1%、縮小60%、一部縮小3%となっています。

2050（平成62）年までのライフサイクルコスト（LCC）は平均約5億円/年、内訳は維持管理経費が約2億円、大規模改修費が約2億円、建替え費が約1億円となっています。2020（平成32）年度頃に大規模改修が、2050（平成62）年度頃に建替えが集中するため、約6億円/年から約12億円/年のLCCがかかります。

なお、これまでのスポーツ・レクリエーション施設の最適化によって、2050（平成62）年までの36年間に約1億円（平均約0.03億円/年）のLCCの節減効果を見込んでいます。

図 スポーツ・レクリエーション施設の延床面積の構成比と施設ごとの方向性

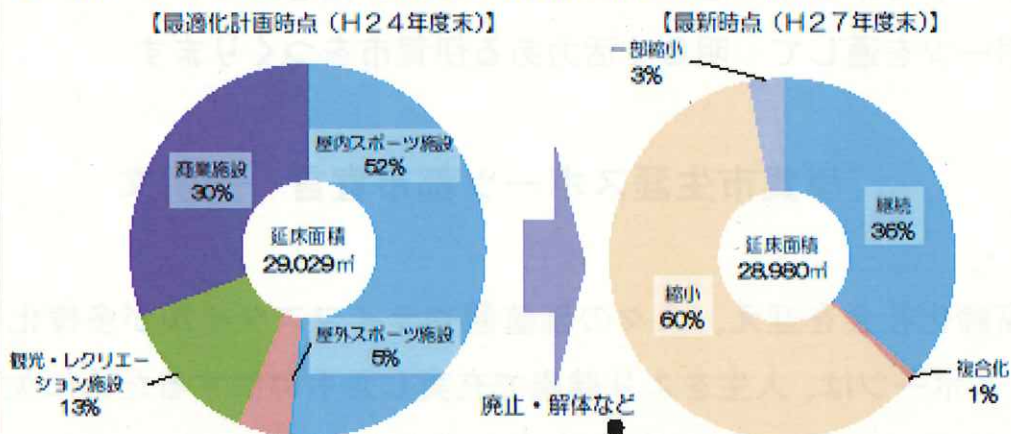


図 スポーツ・レクリエーション施設のライフサイクルコスト

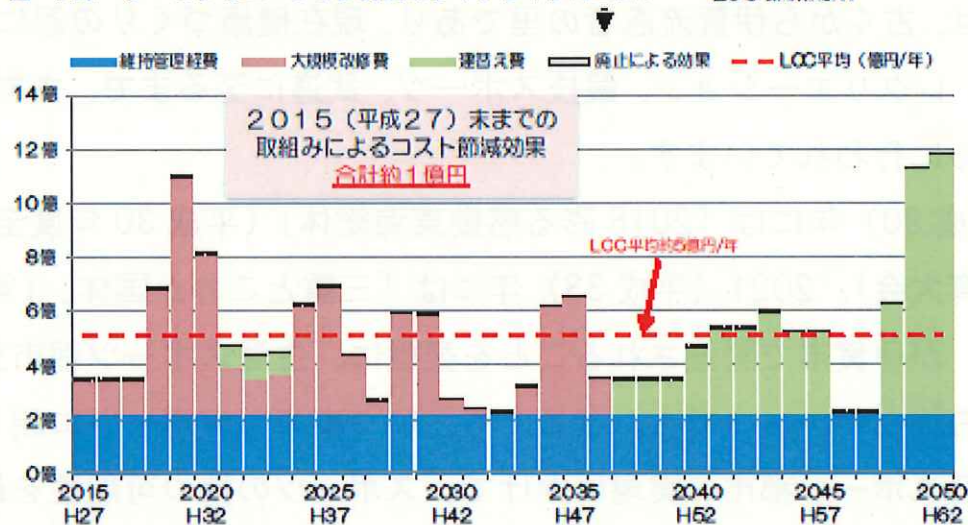
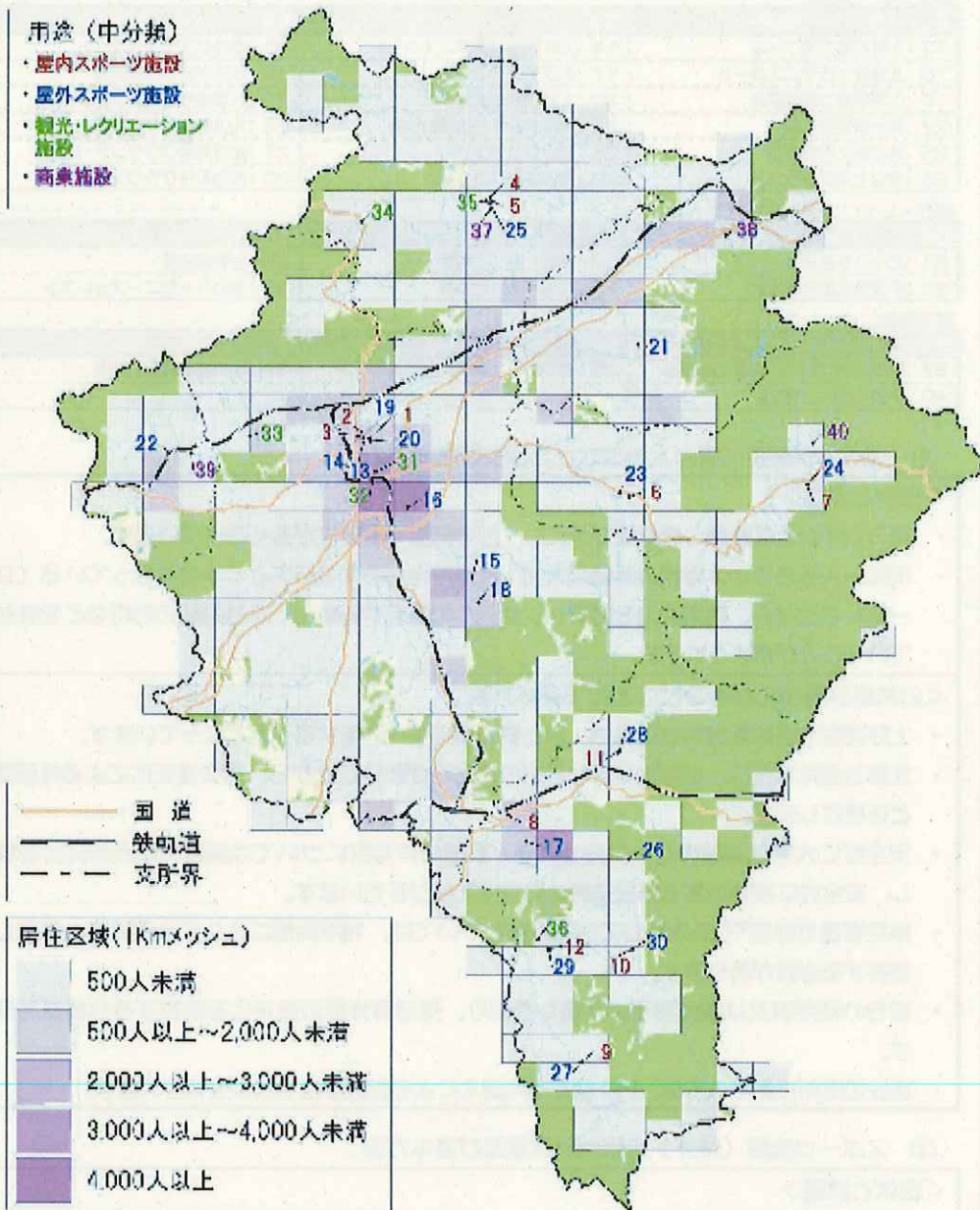


図 スポーツ・レクリエーション施設の配置状況



屋内スポーツ施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
1	上野運動公園スポーツセンター	2	上野運動公園体育館	3	伊賀上野武道館
4	阿山B&G海洋センター	5	阿山第1運動公園(屋内ゲートボール)	6	大山田B&G海洋センター
7	大山田東体育館	8	北部公園体育館	9	南山高尾体育館
10	南山児童屋内体育施設	11	南山上津体育館	12	南山博愛体育館

屋外スポーツ施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
13	上野運動公園プール	14	上野運動公園テニスコート	15	ゆめが丘テニスコート
16	上野緑ヶ丘テニスコート	17	青山テニスコート	18	ゆめが丘多目的広場
19	上野運動公園軟球場	20	上野運動公園野球場	21	いがまちスポーツセンター
22	馬ヶ原運動広場	23	大山田せせらぎ運動公園	24	大山田東グラウンド
25	阿山第2運動公園	26	青山グラウンド	27	青山萬尾グラウンド
28	青山上津グラウンド	29	青山博愛グラウンド	30	青山矢持グラウンド

観光・レクリエーション施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
31	どんじり会館	32	伊賀・指桑古民館	33	岩倉城公園
34	伊賀焼伝統産業会館	35	阿山ふるさとの森	36	青山ハーモニーフォレスト

自衛施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
37	道の駅あやま(阿山女児定遊施設)	38	道の駅いが伊賀サービスエリア	39	馬ヶ原ふれあいの里
40	伊賀の国大山田温泉				

① スポーツ施設（屋内）の現状と課題及び基本方針

<現状と課題>

- ・ 築30年以上を経過した施設が多く、一部の施設で耐震性が低くなっています。
- ・ 市民一人当たりの体育館の面積が県内14市平均比の135%とやや多くなっている（9ページ）ことから、利用状況を勘案し、地元への譲渡や集約化、学校開放の利用などを検討していくことが求められます。

<公共施設最適化計画などにおける基本方針>

- ・ 上野運動公園体育館や弓道場は、旧上野商業高校へ移転する予定となっています。
- ・ 北部公園体育館は、老朽化しているものの利用が多いことから、規模適正化による再配置などを検討します。
- ・ 安全性に大きな課題のないコミュニティ圏域の体育館については譲渡又は売却貸付を検討し、安全性に課題のある施設は廃止に向けた検討を行います。
- ・ 指定管理者制度^{※26}を活用している施設については、利用実態に応じて適宜契約の見直しを検討する必要があります。
- ・ 現行の使用料又は減免利用の見直しを図り、受益者負担の適正化を検討する必要があります。
- ・ 施設の更新にあたっては、PFIなど民間資本による整備手法などが考えられます。

② スポーツ施設（屋外）の現状と課題及び基本方針

<現状と課題>

- ・ 市内に複数あるテニスコートやグラウンド、プールなどは、類似・重複施設などの解消を検討していくことが求められます。

<公共施設最適化計画などにおける基本方針>

- ・ 機能別に利用圏域区分による施設の位置づけを明確にするとともに、近隣施設の状況、市全体のバランス、民間の類似施設のバランス、利用状況、老朽度などを総合的に検討し、機能

^{※26} 指定管理者制度とは、これまで公共団体や第三セクターに限られていたハコモノなどの管理を、民間企業やNPOなどに委ねることを可能にした制度です。

移転など適正配置を図ります。

- 地域の利用者に限定されているコミュニティ圏域のグラウンドについては、公の施設としての用途を廃止のうえ、譲渡又は売却貸付などを検討します。
- 市内に複数あるテニスコートやグラウンドなどは、学校開放による施設利用を視野に入れ、機能ごとに今後のあり方を検討します。

③ 観光・レクリエーション施設の現状と課題及び基本方針

<現状と課題>

- 市役所本庁舎の移転に伴う、まちなかの賑わい創出に向けた周辺施設などの具体的な方針を策定していくことが求められます。

<公共施設最適化計画などにおける基本方針>

- 収益性向上や多様な活用が見込める施設については、施設の譲渡を含め民営化を進めていきます。
- 耐震性が無く、老朽化している施設については、他施設への機能移転を検討します。
- 来館者数の増加に向けた取組みや、現行の使用料の見直しを図り、受益者負担の適正化を検討します。
- 第2期中心市街地活性化基本計画などにに基づき、上野地区の観光施設については、文化施設との連携による回遊性の向上など、周辺施設と一体で観光戦略を検討します。
- 2016（平成28）年3月に、伊賀市の賑わい創出検討協議会から提出された「伊賀市の賑わい創出グラウンドデザイン」に基づき、具体的方針を策定します。

④ 商業施設の現状と課題及び基本方針

<現状と課題>

- 温泉施設は、民間事業者の参入などの影響により、利用者数の減少傾向が続いていることから、収支改善や利用者の向上などの経営改善が求められます。
- 道の駅については、独立採算が可能となるような運営が求められます。

<公共施設最適化計画などにおける基本方針>

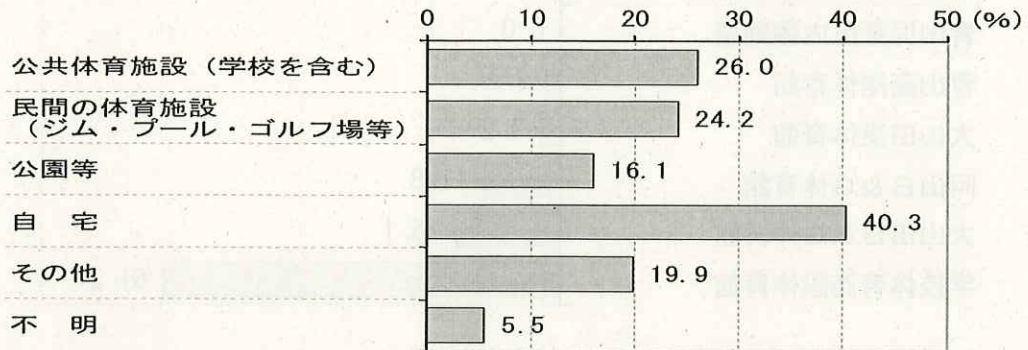
- 温泉施設については、市の財政負担軽減を図ることを考慮し、売却又は貸付などを含めた縮小の方向性について検討しています。
- 収益性向上や多様な活用が見込める施設については、施設の譲渡を含め民営化を進めていきます。

伊賀市公共施設最適化計画（抜粋）

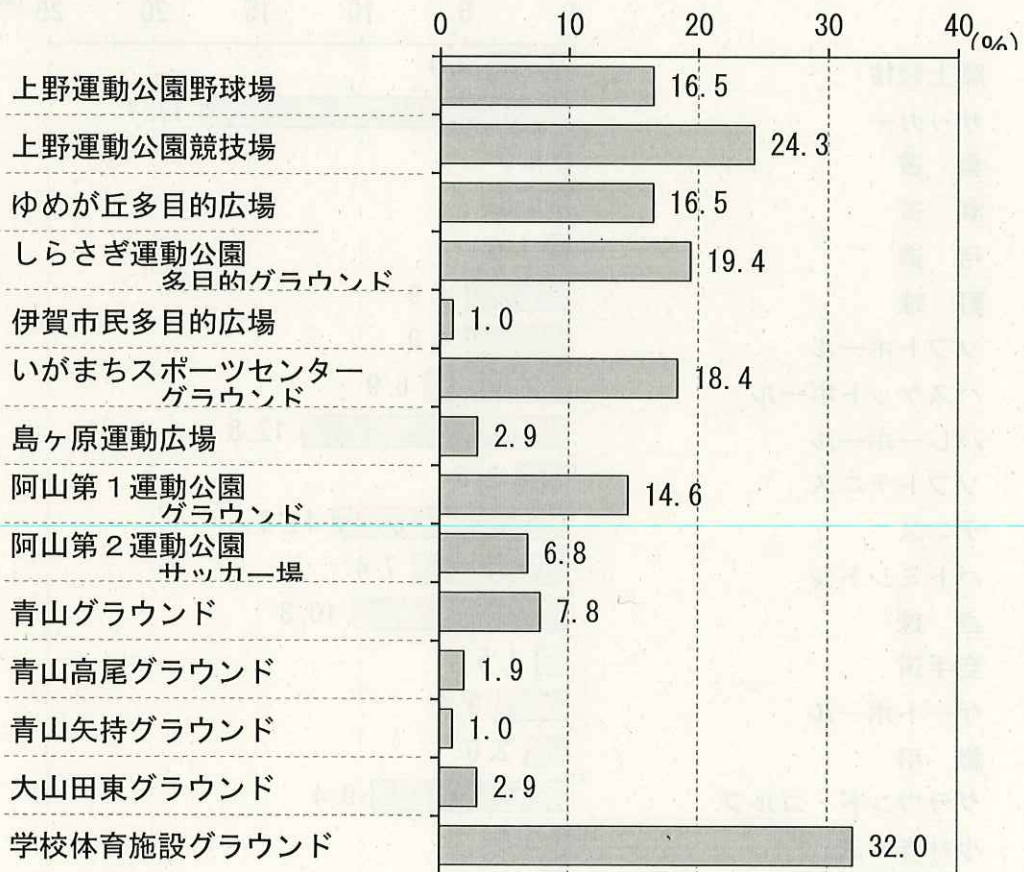
施設用途種別	施設種別	施設名称	延床面積	竣工年次	耐震性	施設ごとの方向性	現在の延床面積	用途別削減目標	目標達成後の延床面積				
屋内スポーツ施設	上	上野運動公園スポーツセンター	481㎡	1973年度	調査予定	縮小	15,035㎡	52%	7,235㎡				
	上	上野運動公園体育館	1,936㎡	1980年度	無	縮小							
	上	伊賀上野運動館	1,472㎡	1983年度	有	縮小							
	調	河山日&G海洋センター	2,654㎡	1983年度	有	維持							
	調	河山第1運動公園（河山日&G二上ホニホ）	1,452㎡	1983年度	有	維持							
	大	河山日&G海洋センター	2,594㎡	1988年度	有	維持							
	大	河山日東体育館	923㎡	1994年度	有	縮小							
	調	北郡公園体育館	632㎡	1982年度	有	縮小							
	調	河山日東体育館	741㎡	1988年度	有	縮小							
	調	河山日東第2体育館	572㎡	1982年度	有	縮小							
	調	河山日東体育館	742㎡	1982年度	有	縮小							
	調	河山日東体育館	757㎡	1989年度	有	縮小							
	<ul style="list-style-type: none"> 安全性に大きな課題のないコミュニティ圏内の体育館については、撤去又は賃付先売却する。安全性に課題のある施設は、廃止に向けた検討を行う。 指定管理者制度を活用している施設については、利用実態に応じて運営契約の見直しを検討する。 増分の使用料または増加分利用の見直しを図り、受益者負担の適正化を検討する。 施設の実態にあたっては、PFIなど民間資本による整備手帳などを検討する。 老朽化している上野運動公園体育館や河山日東第2体育館などは、河山日東第2高校の体育館へ移転する。 老朽化しているものの、利用が強い北郡公園体育館は、規模適正化による再配置などを検討する。 												
	スポーツレクリエーション施設	上	上野運動公園プール	0㎡	1980年度	-				縮小	1,373㎡	7%	1,273㎡
上		上野運動公園	96㎡	1980年度	-	縮小							
上		テニスコート	0㎡	1987年度	-	維持							
上		伊賀が丘テニスコート	0㎡	1987年度	-	維持							
上		上野運動公園テニスコート	0㎡	1986年度	-	縮小							
調		河山日東コート	0㎡	-	-	現況止							
上		伊賀が丘日野田児童館	121㎡	2000年度	有	維持							
上		上野運動公園児童遊園	398㎡	1975年度	調査予定	維持							
上		上野運動公園児童遊園	1,711㎡	1983年度	調査予定	維持							
伊		伊賀が丘スポーツセンター	331㎡	1992年度	有	維持							
調		河山日東児童遊園	0㎡	2007年度	-	縮小							
大		河山日東児童遊園	100㎡	1981年度	無	縮小							
大		河山日東児童遊園	0㎡	-	-	縮小							
調		河山日東児童遊園	0㎡	1983年度	-	維持							
調	河山日東児童遊園	216㎡	1987年度	有	維持								
調	河山日東児童遊園	0㎡	-	-	縮小								
調	河山日東児童遊園	0㎡	-	-	縮小								
調	河山日東児童遊園	0㎡	-	-	縮小								
調	河山日東児童遊園	0㎡	-	-	縮小								
<ul style="list-style-type: none"> 機能別に利用圏区分による施設の位置づけを整理するとともに、近隣施設の状況、市全体のバランス、周辺の権利施設のバランス、利用状況、老朽化などを総合的に検討し、機能移転など適正配置を図る。 地域の利用者に限定されているコミュニティ圏内のグラウンドについては、公の施設としての用途を廃止のうえ、撤去又は賃付先売却する。 市内に複数あるテニスコートやグラウンドなどは、学校開放による施設利用を視野に入れ、機能ごとに今後のあり方を検討する。 													
観光レクリエーション施設	上	伊賀の里	1,499㎡	1989年度	有	縮小	3,767㎡	72%	1,067㎡				
	上	伊賀の里	2,111㎡	1977年度	有	現況止							
	上	高宮公園	248㎡	1982年度	有	一部縮小							
	調	伊賀の里	483㎡	1980年度	有	維持							
	調	河山日東児童遊園	937㎡	1985年度	有	縮小							
調	河山日東児童遊園	389㎡	2005年度	有	維持								
<ul style="list-style-type: none"> 収益性向上や多様な活用が見込める施設については、施設の更張を含め民間化を進める。 収益性が無く、老朽化している施設については、他施設への機能移転を検討する。 来訪者数の増加に向けた取組みや、増分の使用料の見直しを図り、受益者負担の適正化を検討する。 上野地区の観光施設については、文化施設との連携による回遊性の向上など、周辺施設と一体で観光戦略を検討する。 													
商業施設	調	道の駅あやほ（河山日東児童遊園施設）	951㎡	2003年度	有	維持	8,854㎡	81%	1,654㎡				
	伊	道の駅あやほ	680㎡	2005年度	有	維持							
	調	伊賀の里	4,056㎡	1984年度	有	縮小							
	大	伊賀の里	3,167㎡	1988年度	有	縮小							
<ul style="list-style-type: none"> 収益性向上や多様な活用が見込める施設については、施設の更張を含め民間化を進める。 													

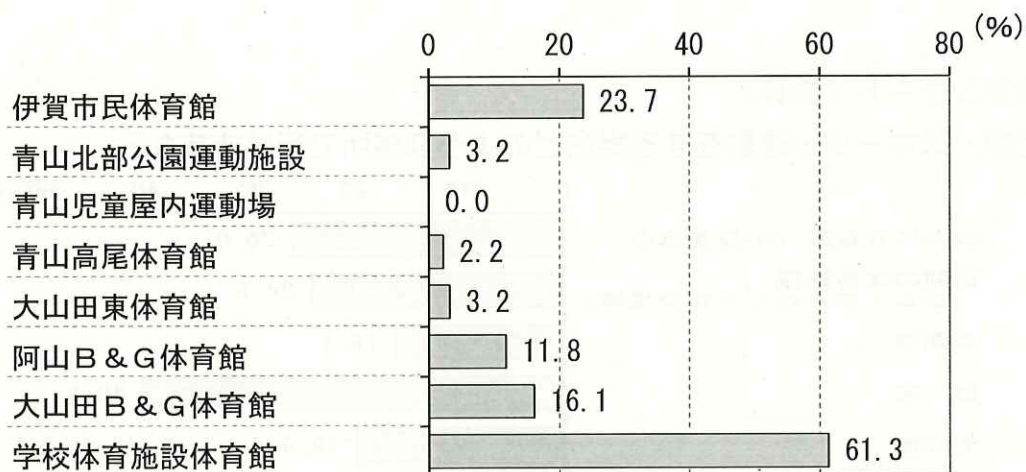
体育施設アンケート（抜粋）

①あなたが、スポーツ・運動をする場合どのような場所で行いますか？

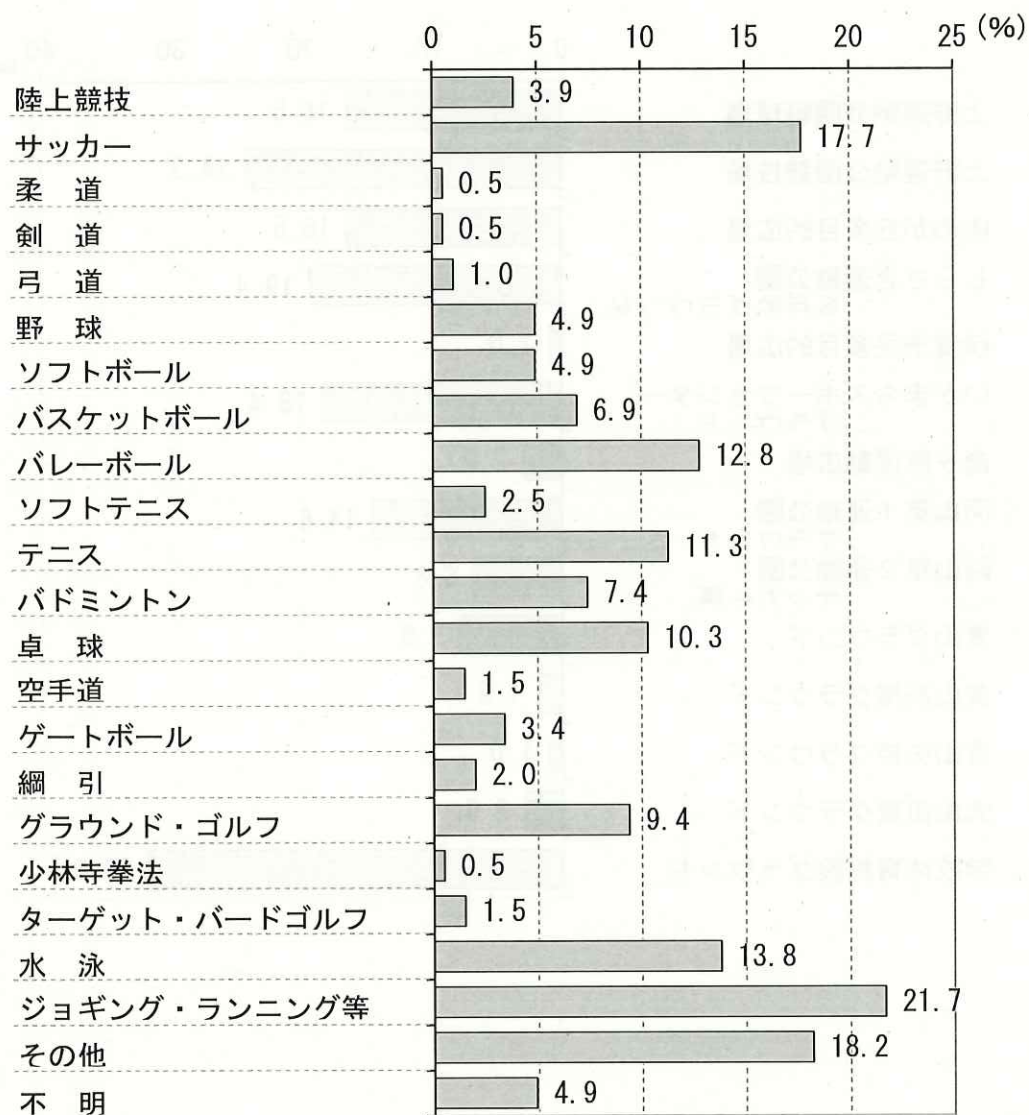


上記①中で利用頻度の高い施設は、どこですか？

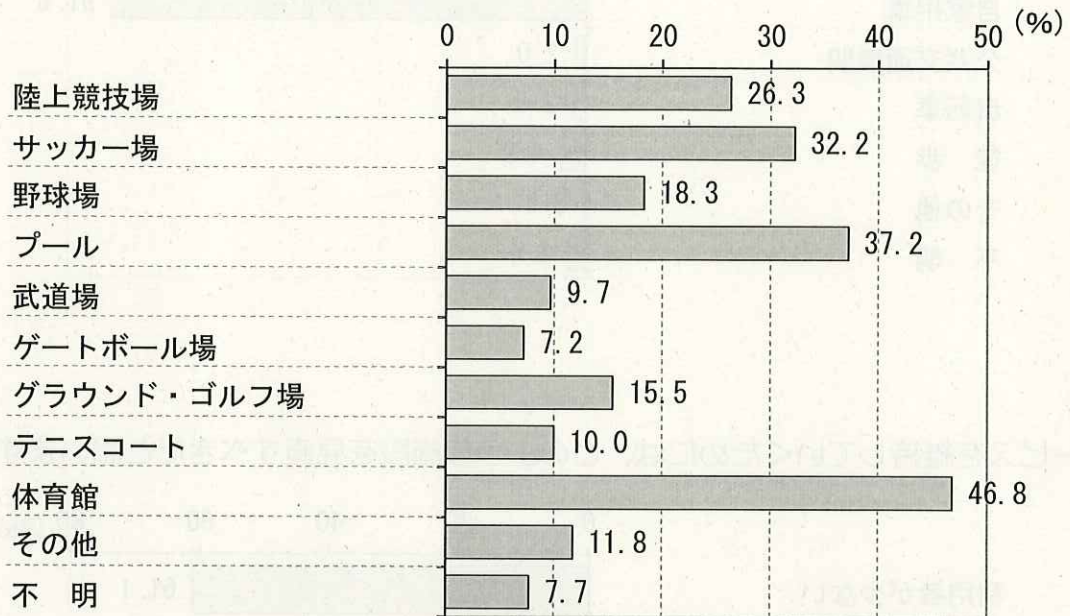




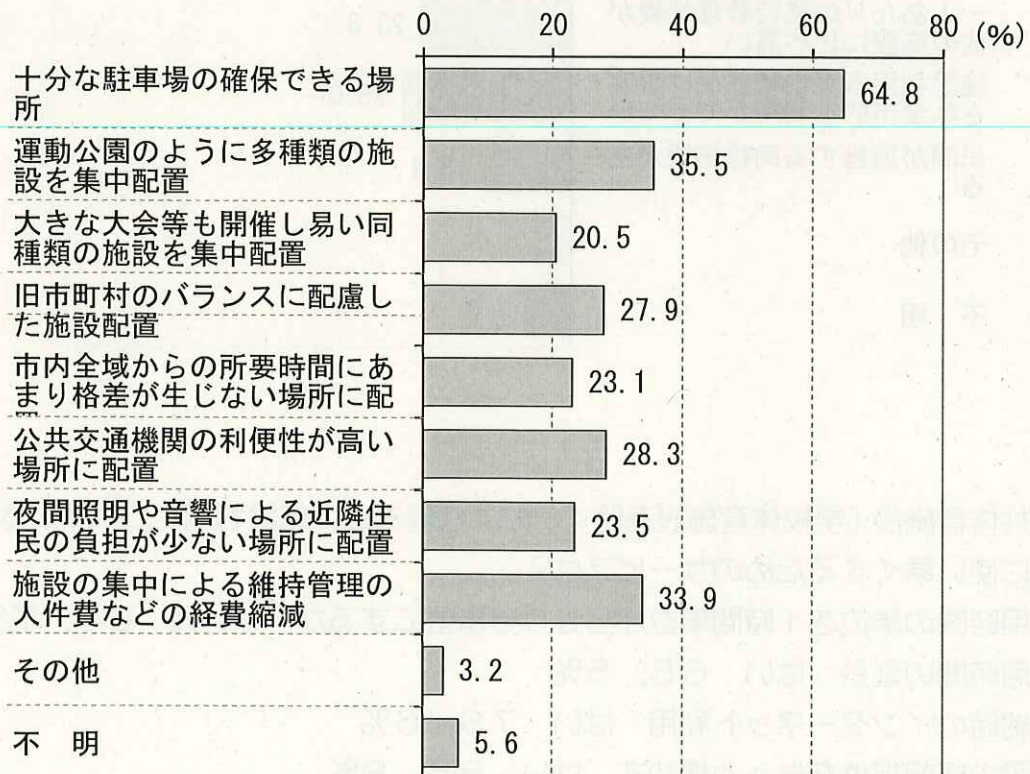
②あなたが公共の体育施設及び学校体育施設で運動・スポーツをする場合、どのような種目を行いますか？



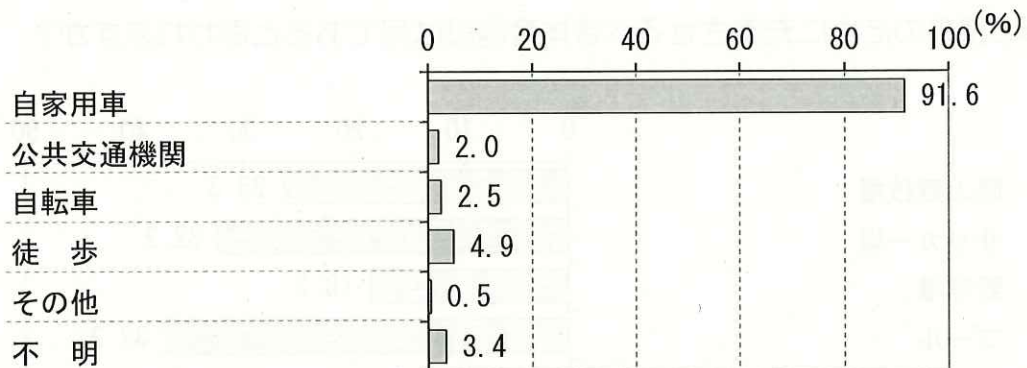
③伊賀市の将来のために充実させるべき体育施設は何であると思われますか？



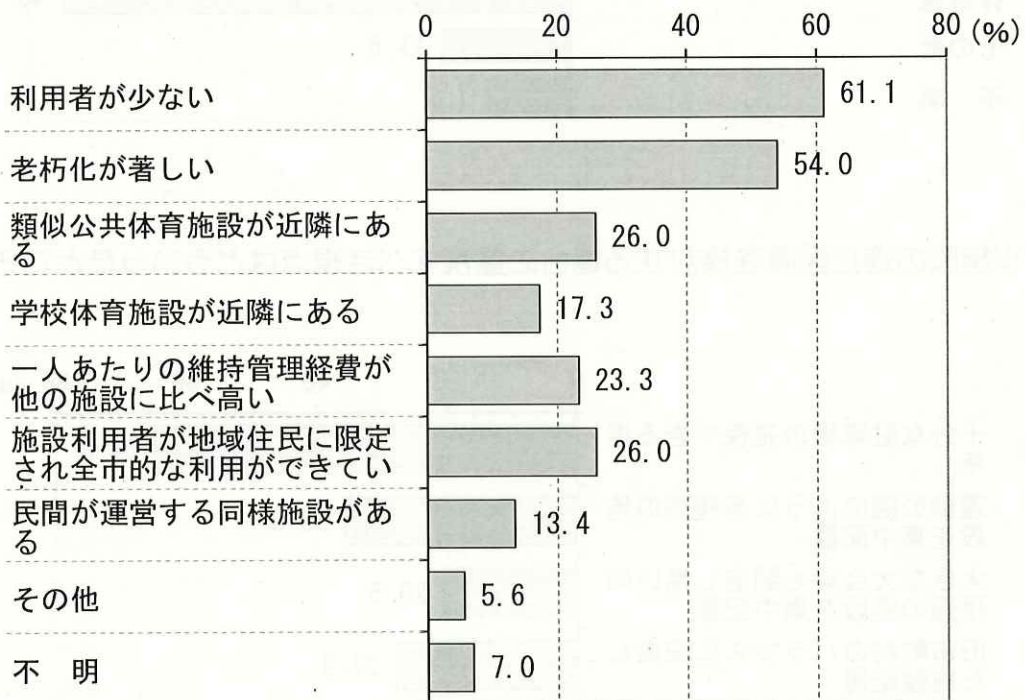
④スポーツ施設の適正配置を検討する場合に重視すべき視点はどこだと思えますか？



⑤あなたが公共体育施設及び学校体育施設を利用する場合の交通手段はなんですか？



⑥サービスを維持していくためには、どのような施設を見直すべきだと思いますか？



⑦公共体育施設（学校体育施設を除く）のより望ましい施設利用について、体育施設面以外で市民に使い易くするためのサービスは？

- 使用時間の単位を1時間単位から30分単位にするが いいえ 60.7%
- 使用時間の延長 はい 65.5%
- 予約時のインターネット利用 はい 78.6%
- 施設の情報提供をもっと増やす はい 85.8%